



復興支援道路 宮古盛岡横断道路
一般国道106号平津戸松草道路
(仮称)平津戸トンネル貫通式のお知らせ
～宮古市側最長のトンネルが貫通しました～



平成23年度に事業化された宮古盛岡横断道路「平津戸松草道路」(延長約7km)は、地域の方々のご協力により鋭意事業を進めております。

このたび、宮古盛岡横断道路の内、宮古市側で最長となる「(仮称)平津戸トンネル」(延長3,159m)の貫通式典を執り行うことといたしましたので、お知らせいたします。

貫通式には宮古市長をはじめ地元の方々にご参加して頂くこととしております。

【貫通式典】

1. 日 時：平成30年 5月 19日(土) 10:00～(約1時間程度)
受付は、9:20から行います。
2. 場 所：(仮称)平津戸トンネル本坑内 盛岡市側坑口付近
3. 主催者：清水建設株式会社 東北支店
4. 内 容：【別紙 - 2 参照】

注) 現地には駐車場がございます。現地の交通誘導員に従い駐車願います。

(参考) 宮古盛岡横断道路 平津戸トンネル工事 概要【別紙 - 3 参照】

(参考) 宮古盛岡横断道路の主な整備効果【別紙 - 4 参照】

《発表記者会：岩手県政記者クラブ、宮古記者クラブ、東北専門記者会》

問い合わせ先

【式典や施工内容に関するお問合せ】

清水建設株式会社 東北支店

平津戸トンネル作業所

所長

電話：0193-77-4281

あらい なおと
新居 直人

【事業に関するお問合せ】

国土交通省 岩手河川国道事務所

副所長

工務第二課長

電話：019-624-3131(代表)

としな い よしのり
十枝内 美範(内線205)

さ さ き みのる
佐々木 稔(内線411)

宮古盛岡横断道路 (仮称)平津戸トンネル
貫通式 次第 (予定)

平成30年 5月19日(土)

(仮称)平津戸トンネル本坑内(盛岡市側坑口付近)

貫通式典 午前10時00分～午前11時00分

- 一、開会の辞
- 一、貫通報告
- 一、貫通除幕
- 一、久寿玉開披
- 一、清めの儀
- 一、通り初めの儀
- 一、来賓祝辞
- 一、発注者挨拶
- 一、鏡開き(菰^{こも}開き・鏡割り)
- 一、乾杯・歓談
- 一、施工者謝辞
- 一、万歳三唱
- 一、閉式の辞



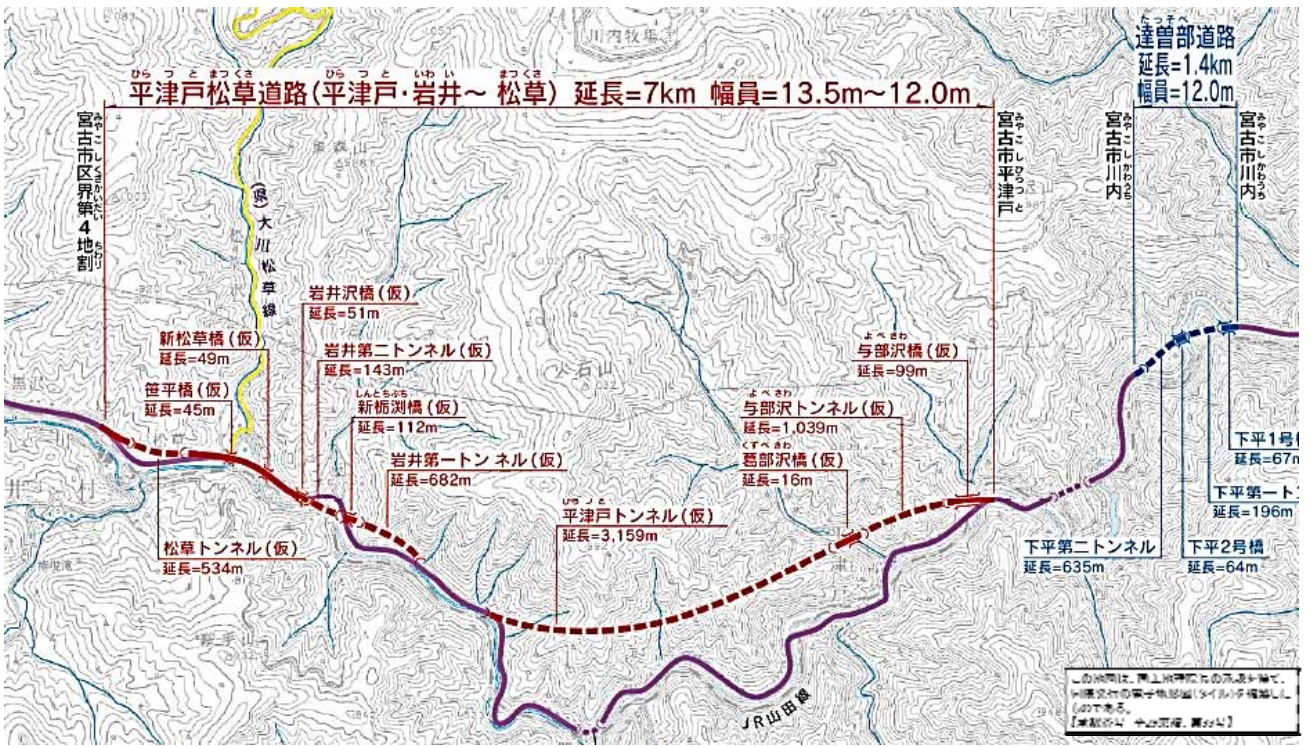
宮古盛岡横断道路 平津戸トンネル工事



■ 工事概要

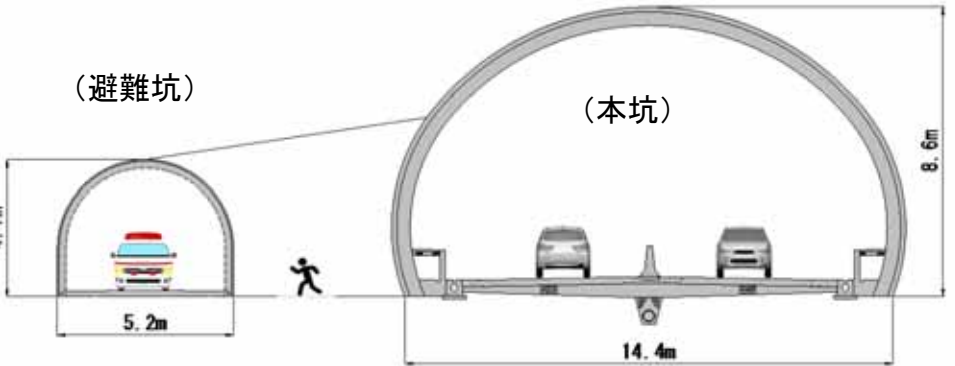
工事名	宮古盛岡横断道路 平津戸トンネル工事					
発注者	国土交通省 東北地方整備局					
工事場所	岩手県宮古市平津戸～区界 地内					
工期	H26. 12. 4～H30. 2. 23(当初) H26. 12. 4～H30.10. 19(変更)					
工事金額	¥12,518,064,000円(当初) ¥13,209,264,000円(変更)					
施工者	清水建設株式会社 東北支店 現場代理人: 新居 直人 監理技術者: 小岩 一博					
工事内容	工種	設計数量	単位	施工数量	進捗率(%)	残数量
	本坑掘削・支保工	3,159	m	3,159	100.0	0.0
	避難坑掘削・支保工	3,189	m	3,189	100.0	0.0
	本坑覆工コンクリート・防水工	3,159	m	2,826	89.5	333.0

■ 位置図



■ 標準断面図

H30.5.7現在



■ 盛岡側坑口部



■ 宮古側坑口部



安全・安心な住民生活を支援

- 国道106号の区界峠付近は降雪量も多く、冬期交通の障害となっている。
- 冬期は積雪・路面凍結により正面衝突事故・追突事故が増加。
- 平津戸松草道路の整備により、難所の解消と冬期の安全性が向上し、安全・安心な住民生活を支援。

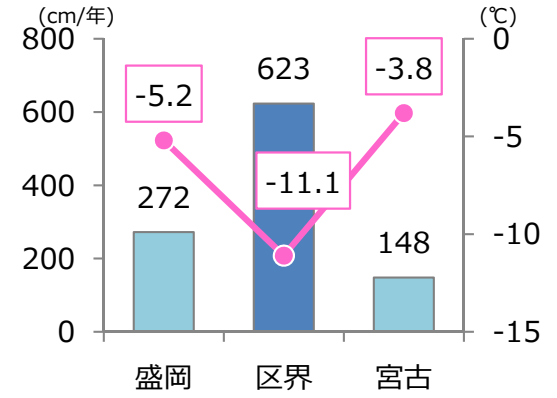
▼ 国道106号の交通隘路の状況



▼ 平津戸地区の急カーブ状況



▼ 年間降雪量と2月の最低気温

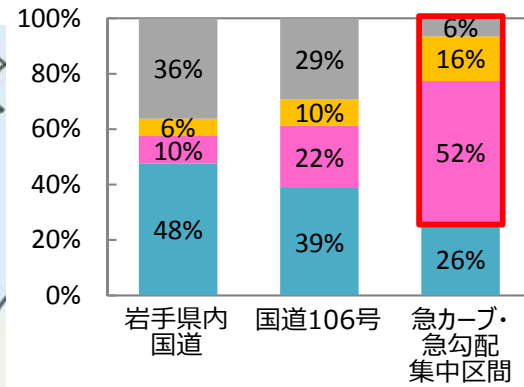


資料：気象庁（年・月ごとの平年値）



※急カーブ・急勾配は、設計速度60km/hにおける限界値を超えている箇所・区間を計数
急カーブ：R<150m 急勾配：I>5.0%

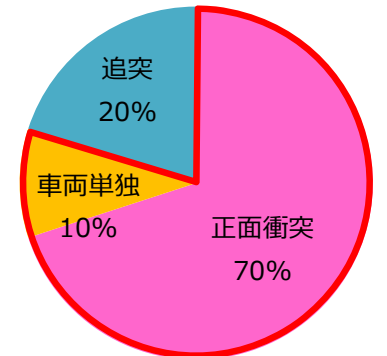
▼ 国道106号の冬期事故類型



資料：H18-H27イタルダータ

正面衝突・車両単独の事故割合が多い

▼ 急カーブ・急勾配集中区間における冬期重大事故の事故類型



※重大事故：重傷事故及び死亡事故を指す
資料：H18-H27イタルダータ

重大事故の約8割が正面衝突・車両単独事故

交流・物流の活発化や周遊観光の活性化を支援

- 宮古港～室蘭港間で、岩手県初の新たなフェリー航路が平成30年6月に開設
- 三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路の整備による、県内各地や仙台圏、首都圏とのアクセス性向上等が航路選定の理由
- 北海道からの観光需要が期待されるなど、交流・物流の活発化や周遊観光の活性化を支援

復興道路・復興支援道路の整備とフェリー航路



航路概要

(川崎近海汽船株式会社プレスリリースより抜粋)

開設時期 平成30年6月22日
 運行計画 1日1往復、毎日運行

選定理由

急ピッチで進められている復興道路等の早期開通により宮古港から県内各地や仙台圏、首都圏へのアクセスが大幅に向上
 トラックドライバーの休憩時間8時間を確保できる最適な航路
 両港とも近隣の観光資源が豊富で旅客需要に期待
 自治体がフェリー航路の誘致に積極的であり、トラック事業者等からの期待も大きい。

道路整備による所要時間の短縮効果

盛岡南IC～宮古市役所

盛岡市	開通前	113分	宮古市
		約30分短縮	
	開通後	82分	

時間短縮はH22道路交通センサスを基に算出(将来は道路構造に応じた速度で算出)

宮古盛岡横断道路の整備により、盛岡地域と宮古地域は概ね90分でアクセス



宮古港周辺の道路整備状況

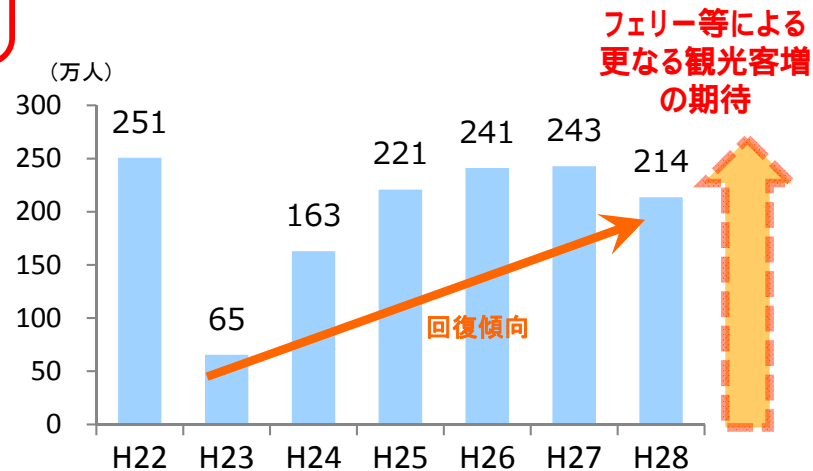


平成27年11月に宮古港でフェリー乗船会が開催され、カーフェリー「シルバークイーン」が寄港



観光入込客数の推移と期待

(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)



災害時における緊急輸送路の確保

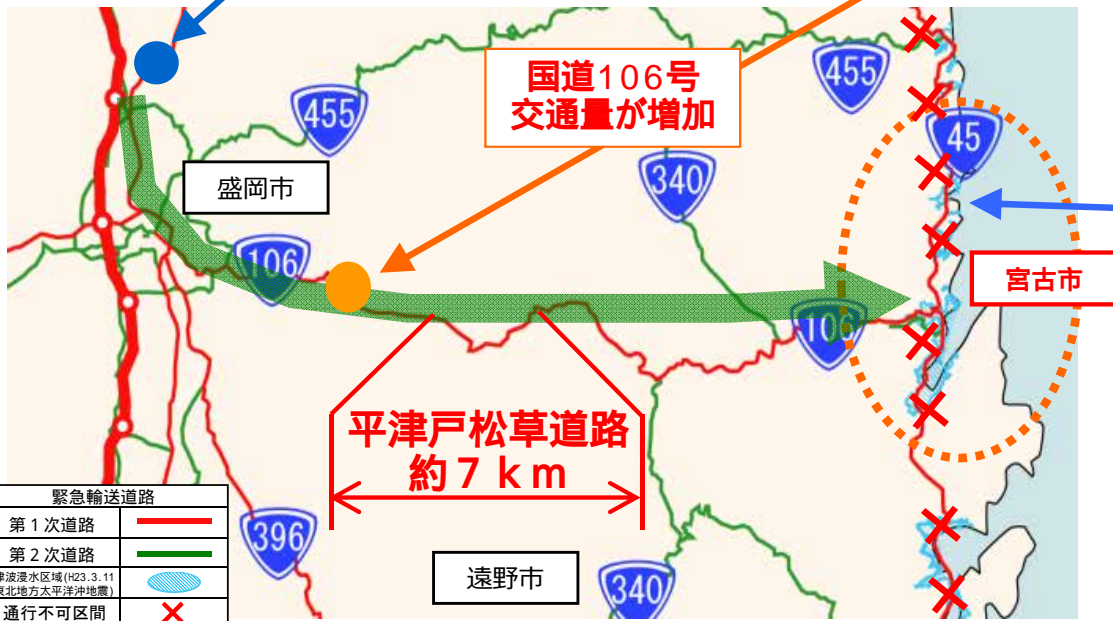
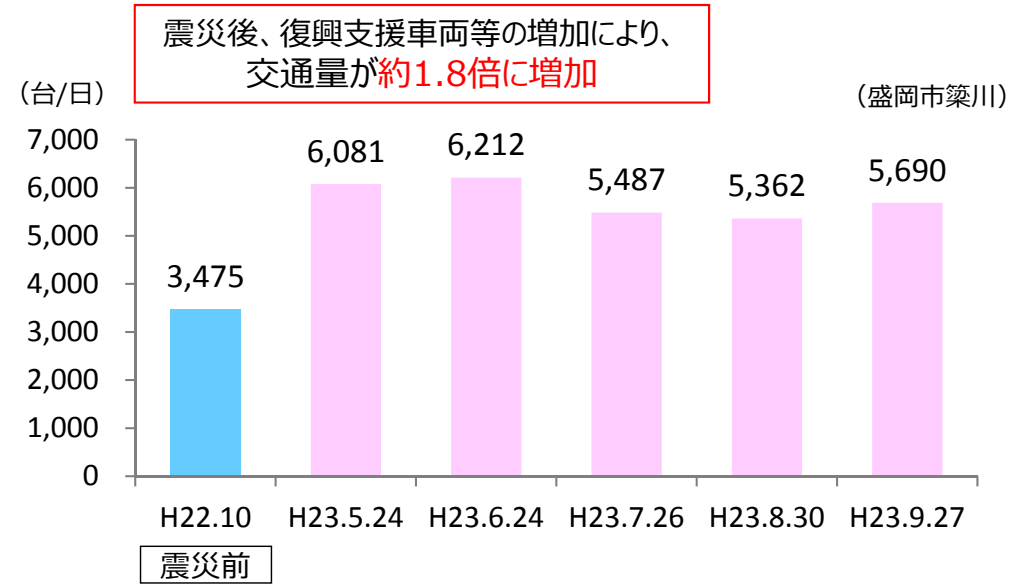
- 東日本大震災では、津波被害により幹線道路の一部が被災し、多くの箇所で通行止めが発生。
- 国道106号は被災地（宮古市）への支援、物資輸送で利用された。
- 平津戸松草道路の整備により、災害時における緊急輸送路の確保を支援。

岩手県の緊急支援物資物流拠点（滝沢市）



全国から寄せられた支援物資は、一度「滝沢市産業文化センター・アピオ（滝沢市）」に集約された後、被災地へと輸送

▼震災前後の国道106号の交通量の変化



津波被災状況



国道45号が寸断され横軸での救援が必至
津波被災状況（宮古市内）